

ハンドボール

特集

第15回ヒロシマ国際大会

第51回全日本実業団選手権

男子20回・女子8回世界学生選手権

9

5

SEP.2010・No.512



[表紙写真：ヒロシマ国際大会で最優秀選手に選ばれた宮崎大輔選手]

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ **国際公認球** | **検定球**
縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ **国際公認球** | **検定球**
縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

マスターズハンドボール 発展と分化、そして課題

(財)日本ハンドボール協会参事・マスターズ専門委員会委員長 小山 哲央

思い返しますと平成5年8月、豊田市で全日本教職員大会が愛知国体のリハーサル大会として開催された折に、全日本マスターズが産声を上げました。第1回大会は男女で9チーム、第2回は僅かに6チームの参加で継続が危ぶまれましたが、多くの仲間の協力で今日の規模に育ってまいりました。

今年度、第18回大会は、男女合わせて69チームが参加し、これまで3年連続愛知県豊田市で開催されました。同じく豊田市で開催された第10回記念大会は、34チームの参加でしたので8年間で大会規模が倍増したことになります。

第1回から続けてきました懇親会も、第16回大会では600人以上の選手・役員が参加し、身動きが出来ないほどでした。加えて第2回大会から行ってきましたイベント「親と子のふれあいタイム」も、昨年からは「60歳以上の皆さんと子供たちとのふれあいタイム」(仮称)に衣替えをしました。60歳以上の参加選手65名に交じって、豊田市内のスポーツ好き高齢者とそのお孫さんも大勢参加しハンドボールを楽しみました。今年度はこの中から、ボランティアで10名以上の方が手を挙げてオフィシャルを務めて下さいました。

このようなボランティアの皆様方の参加は、「全て参加者の手作りで」を基本理念とする大会趣旨を、より一層鮮明にしてくださいました。

今後は現役マスターズハンドボーラーに加えて、マスターズ予備軍となる世代が控えているので、規模は最大100チームまで拡大すると考えております。そのために1つの地域で少なくとも10コートが必要となり、非常に厳しい条件になります。そこで、今後マスターズハンドボールを発展させるためには、分化を試み、再構築する必要があります。そのためには少なくとも以下の3つの課題を克服しなければなりません。

〈課題1〉ブロックマスターズの普及と充実

- (1) 都道府県協会にそれぞれ有資格チーム(個人も含む)が複数登録すること
- (2) 総合型地域スポーツクラブを視野に入れた市区町村型チームの結成

〈課題2〉全日本マスターズの発展と分化

- (1) 全日本順位決定型マスターズの開催
- (2) (財)日本体育協会主催の日本スポーツマスターズへ参入
- (3) 全日本交流型マスターズの開催
 - a) 現行のマスターズの継続
 - b) 個人参加型年齢別マスターズの開催
 - c) ファミリー参加型マスターズの開催
 - d) 11人制ハンドボールの開催

〈課題3〉専用ホームページを開設し普及及び広報活動の多様化を図る

マスターズ委員会といたしましては以上の3つの課題に取り組んで行こうと考えております。全国ブロック協会、都道府県協会、市区町村協会、更に全国のハンドボールの愛好者の皆様のご協力なくしてはマスターズの発展はありません。応援宜しく願いいたします。これまでの参加者の皆様には、手作り大会に更なるご支援とご協力をお願いいたします。

第15回ヒロシマ国際ハンドボール大会をおえて

広島県ハンドボール協会理事長 山本 一

1994年の広島アジア競技大会のメモリアル大会として、翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会ですが、今年で15回目を迎えました。一度だけ2003年はSARS騒動の為に中止としましたが、原則として男女の大会を交互に行っており、今年は男子の試合でした。

ロンドンオリンピック出場を目指している酒巻日本代表監督とも強化部を通じて連絡を取り、先のアジア選手権で韓国について2位となったバーレーン代表、そして身長200cmを越す選手が4名もいる中国代表を招聘、また次のJAPANを担うNEO日本代表の4チームでのリーグ戦でした。

また招待試合として7月11日まで徳島で開かれた全日本実業団選手権の後、引き続き広島で強化合宿を行っていた全日本女子チームと広島メイプルレッズとの試合を実施しました。広島は全国を縦断した豪雨のあと大会を通じて猛暑となり、選手団の皆さんはコンディショニングの調整には苦勞されたことと思います。

外国チームの来広は22日の夜間となった為、ウェルカムパーティは広島県体育協会、広島市スポーツ協会、日本協会、広島県協会役員会及び協賛各社の方の参加による前夜祭とし、雰囲気は全日本チームの激励会となりました。また代表者会議は翌日の朝行なうことになりましたが、試合の方は順調にスケジュール通り消化できました。

大会は前にも述べたように3日間猛暑に見舞われましたが、それでも足を運んでくださったハンドボールファンには感謝の気持ちで一杯です。

最終日には表彰式及びサヨナラパーティを行ないました。パーティには、広島オリンピックを準備されている秋葉忠利広島市長も忙しい政務の中出席いただき、祝辞を頂戴しました。

最後に大会を開催するにあたり、広島県、広島市をはじめ各方面から多大な協力を賜りましたことに感謝し、男女日本代表にはなんとしても打倒韓国を果たし悲願を達成していただきたいものです。

■最終結果

優勝：日本代表
2位：NEO日本代表
3位：バーレーン代表
4位：中国代表

■個人表彰

最優秀選手賞 宮崎 大輔 (日本代表・CP)
優秀選手賞 松村 昌幸 (日本代表・GK)
谷村 遼太 (NEO日本代表・CP)
マハー アーソレ ヤーハ (バーレーン代表・CP)
周 小堅 (中国代表・CP)

戦 評

【男子】

日本代表 36 (17 - 16, 19 - 10) 26 NEO日本代表

立ち上がり互角の展開を見せる両チームであったが、10分過ぎからNEO日本代表のシュートが日本代表GK松村の好守の前になかなか決まらなくなる。ペースをつかんできた日本代表が抜け出すかと思われたが、NEO日本代表のGK甲斐もファインセーブを連発、簡単に流れを渡さない。ディフェンスの足もよく動いてきたNEO日本代表は、攻撃のリズムも良くなり、日本代表と互角以上の戦いを見せ、追い上げを図る。白熱した接戦を演じた前半は16対17の日本代表が1点リードで折り返した。

後半に入り日本代表が2連取、主導権を握るかと思われたが、NEO日本代表も粘りを見せ3点差のビハインドをキープしチャンスをうかがう。試合は終盤に突入、日本代表は7番宮崎がパスにシュートに活躍、攻撃のリズムを作り、じわりじわりと点差を広げていった。勢いに乗った日本代表は着実に加点、36対26の10点差をつけ、初戦を快勝した。

バーレーン代表 27 (14 - 12, 13 - 14) 26 中国代表

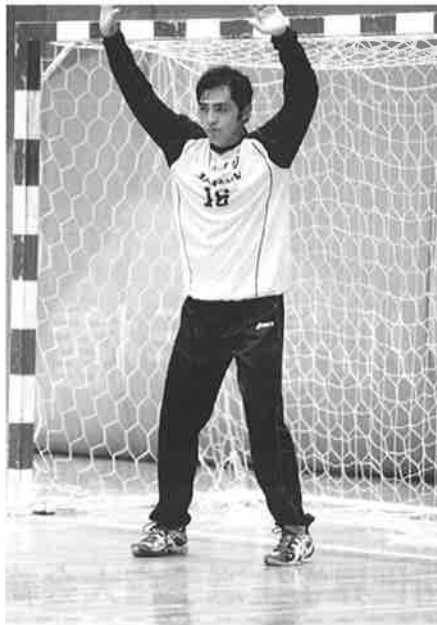
NEO日本代表 35 (20 - 12, 15 - 16) 28 バーレーン代表

NEO日本代表は、戻りの遅いバーレーンに対し速攻を仕掛け得点を重ね序盤から大きなリードを奪う。バーレーンは前半12分に早くもタイムアウトを要求し、立て直しを図るがNEO日本代表の勢いは止まらない。NEO日本代表はその後速いパス回しからリズムの良い攻撃を組み立て試合を有利に進め、20対12の8点をリードし前半を折り返した。

後半に入り、バーレーンGK16番サラがファインセーブを連発、NEO日本は攻守のリズムが悪く、バーレーンのサイドからの攻撃を止められず、一時追い上げを許すが、試合の流れが大きく変わることはなかった。後半は互角の勝負を展開するが、前半の得点差は大きく35対28でNEO日本代表が勝利を収めた。

日本代表 29 (11 - 12, 18 - 8) 20 中国代表

序盤、リードを奪った日本代表はオフェンス・ディフェンスとも中国に対し優位に立つように見えたが、シュートミスが目立ち逆に中国にリードを許す展開となる。前半20分に同点に追いついた日本は、21分日本代表7番宮崎のトリッ



キーなステップシュートで逆転。しかし、25分には中国に再逆転されるといった一進一退の攻防を繰り返した。

前半を11対12の1点ビハントで折り返した日本代表はディフェンスシステムを6-0ディフェンスから3-2-1ディフェンスに変更、リズムを崩した中国を日本は一気に逆転。勢いに乗るかと思われたが、中国代表GK王のファインセーブに阻まれペースダウン、競り合いから抜け出せなかった。10分過ぎから日本代表7番宮崎、3番高智の連続得点で一步日本が抜け出すと、そのリードを保ったまま終盤戦を迎えた。終盤攻守のリズムを取り戻した日本は一気に加速、29対20の9点差をつけ勝利を収めた。

NEO日本代表 26 (12 - 11, 14 - 14) 25 中国代表

NEO日本代表が石戸のミドルで幸先良く先制。すかさず中国代表も打ちかえす。序盤、NEO日本代表は中国の高いディフェンスとGKのセーブに苦しみ得点が伸びない。中国も5-1ディフェンスを攻めあぐね、8分で4対4のロースコアの展開。静かな立ち上がりの中、中盤を迎え先にペースを握ったのがNEO日本代表。GK甲斐の好セーブから森、谷村らが得点を重ね、9対5と13分30秒までに4点のリードを奪う。中国も再三の好機を甲斐に阻まれようやく20分過ぎに6点目を挙げ、徐々に反撃、攻撃に決め手を欠くNEO日本代表を尻目に29分には10対12と2点差に詰め寄る。残り30秒、さらに1点を返し、12対11、NEO日本代表1点差のリードで前半を終了した。

後半出だし、前半終了間際の勢いで、中国代表が2点を連取し、すかさず逆転。ここから、一進一退の攻防が続き、11分まで18対18の同点で中盤を迎える。中盤以降も膠着状態が続き、20分まで21対21と、双方ともメンバーを頻繁に入れ替え打開策を講じるが、抜け出せない。25分ポストプレーから2点連取し、中国代表が2点リード、しかし、NEO日本代表も森が中国代表の2分間退場を誘い1点差、27分には一気に26対25と逆転した。ディフェンスで粘りを見せたNEO日本代表がそのまま逃げ切り、勝利した。

日本代表 28 (15 - 13, 13 - 9) 22 バーレーン代表

試合開始から日本代表GK浦和が好守を連発、攻撃も早いパス回しでバーレーンディフェンスを揺さぶり、得点を重ねる。日本の速い攻撃についていけないバーレーンは前半10分までに警告を1枚、退場を2人だす苦しい展開となった。しかし、日本のシュートミスが続きだすとバーレーンが息を吹き返し日本は劣勢に立たされる。日本はその後も悪い流れを断ち切れずミスを多発、ディフェンスのリズムも崩し、バーレーンの追い上げを許した。日本代表は、なんとか2点のリードを保ち前半を折り返した。

後半に入っても互角の勝負を展開、バーレーンは後半4分過ぎから13分までにのべ4人の退場者を出す。日本はこの間にも攻めきれず、拙攻を繰り返すが、なんとか5点まで差を広げることになった。その後もバーレーンは、ミスを繰り返すが、日本は相手のミスに乗じてたたみかけることができない。試合は後半中盤に奪った得点差を保ち終了。28対22で日本が勝利を収めた。

【女子】

日本代表 38 (16 - 14, 22 - 9) 23 広島メイプルレッズ

両チームとも足がよく動き、スピード感あふれる攻防を展開。互角の戦いを見せていたが、前半10分過ぎからシュートの精度に勝る日本代表が一步抜け出す。日本代表10番・藤井の活躍やスカイプレーやポストプレーに苦しむメイプルレッズは、試合開始からディフェンスのみの出場だった復帰の呉が攻撃参加、攻撃のリズムを取り戻した。呉の活躍もあり追い上げムードを見せるメイプルレッズであったが、結局前半は16対14で日本代表の2点リードで折り返した。

後半、攻撃が単調になり始めたメイプルレッズに対し、日本代表の勢いは加速。後半10分には8点まで差は広がった。ここでメイプルレッズはタイムアウトを要求し、なんとか流れを変えようとするが、日本代表の勢いは止められず、日本代表ががっちりと試合の主導権を握った。最後まで足の衰えなかった日本代表が38対23で大勝した。

[男子]	[女子]
優勝：ハンガリー	優勝：ハンガリー
2位：チェコ	2位：ルーマニア
3位：セルビア	3位：チェコ
4位：日本	4位：トルコ
5位：キプロス	5位：ポーランド
6位：トルコ	6位：日本
7位：ポーランド	7位：ブラジル
8位：ウクライナ	
9位：UAE	
10位：メキシコ	

第20回 世界学生 ハンドボール選手権

20th World University Handball Championship 2010

男子第20回・女子第8回世界学生選手権大会総括

チームリーダー 福地 賢介 (全日本学生ハンドボール連盟)

2010世界学生選手権大会は、ハンガリー・ニレージハーザ市を中心に、近接都市のチサバシバリ、チェンガー他で、男子10ヶ国、女子7ヶ国が参加し6月27日(開会式)から7月4日まで開催され、男女共に開催国ハンガリーが優勝し閉幕した。同地は1996年12月に男子第13回大会が開催され、日本代表と名がつくチームがはじめてロシアに勝利したゲンの良い地であり、男女共に初のメダルを狙ったが、男子は3位決定戦で7mTCにて敗れ4位、女子は、不馴れな大型選手を相手に健闘したが、惜しくも6位であった。

当初の連絡では、男子16、女子12チームとの事であったが、ロシアをはじめ旧ソ連勢が8月のロシア大会の為に不参加と言う説明を受け、更に、最終的にはエジプトの直前棄権も含め、前述の参加国数となった。男子はA Bブロックに分け、予選リーグ・順位決定戦方式、女子は7ヶ国の総当り戦で競技が行われた。

ユニバシアード規定(FISU)で、社会人2年目までの選手の出場が認められており、男子は今回も社会人中心にチーム編成したが、国際試合経験に関しては、ポーランド・イタリア・今回と3大会連続参加選手も含め、不安は認められなかった。女子も、イタリア大会参加も含めた社会人7名プラス学生9名の編成であったが、やや国際試合経験不足は否めなかった。

1995年にハンガリー学生選抜チームが来日して以来、ハンガリー大学スポーツ連盟(HUSF)と全日学連は交流を重ねているが、非常に親日的で、前回大会時も今回も直前合宿を含め何かと便宜を図ってくれた。また、当地のマスコミも、女子チームのコーチがハンガリー人のローランドコーチという事も手伝い、直前合宿を取り上げてくれていた。

ギリシャの経済破綻の次は、ハンガリー、イタリア等ではとニュースで報道されているが、1996年開催時と比較して、大会規模、運営、その他の面で、質素と言うか、その様な点が多々見受けられ、市からの予算面の補助圧縮があった事が窺われた。しかし、HUSFは、過去にニレージハーザ市とジョイントし、各種目の世界学生選手権大会を開催しており、



運営面では円滑な運営が認められた。

優勝したハンガリー男子は、前々回7位・前回9位とやや低迷していたが、1996年優勝時の主将ロスタ弟がコーチを、また、元ハンガリー代表のロスタ兄がヘッドコーチを務め、自国開催優勝を果たした。女子は前回ポーランド、今回はトルコに決勝戦で敗れているが、今回は前回メンバーの大半が残り、安定したチーム力を見せて、最終日前に優勝を決めている。

日本男子は、スタッフ報告で述べられると思うが、個人的な印象では、早いパスワークからスピードある攻撃を見せていて、一応の得点力を見せていた。しかし、緒戦のメキシコ戦で立ち上がりもたつき前半を苦戦した様に、チェコ戦でもそこを衝かれて敗れ、やや不安定さを見せていた。ただ、全日本酒巻監督が、国際試合に若手(信太他学生含む)の起用を図ってくれている事が経験となり生かされていた。

女子は、スピードある攻撃ではあったが、大型選手を相手にDF面で苦戦(特にポスト対応)し、それが結果となって表れた。

男女共にU-24として、将来、全日本に繋る選手の育成という事を見ると、この大会での経験は大きなものとなると思われる。最後に、大会参加に際して、多くの方々のご支援、ご協力にお礼申し上げます。

男子

男子監督 佐藤壮一郎

1. はじめに

選手やスタッフを派遣して下さった所属チームの皆様や強化のサポートをして下さった日本代表酒巻監督、大会出場準備などでご尽力頂いた日本協会の方々にお礼を述べさせていただきます、結果と取り組み、今後の課題を記載いたします。

2. 基本方針

課題克服・知識創造型チームを目指し、強化して行く。具体的には、過去の世界学生選手権の結果を現状把握（成果と課題）として、成果については継続。課題に対しては原因究明、対策を立案し、実行していき、課題の克服を目指す。また、知識創造については、チーム（スタッフ・選手）の役割を明確にし、責任と権限を持たせることでアイディアの抽出共有を図っていき、自立した選手の育成を目指していく。具体的な実施内容や計画については、下記、活動骨子をご参照ください。

3. 活動骨子

(1) 目標…メダル獲得。

(2) チーム方針…得点力のある選手をベースに特徴に合った DF システムを構築し、スピードある展開を目指す。

(3) 過去大会の課題

【フィジカル面】ハンドボールは、コンタクトプレーが許されるため、時としてウエイトが武器となる。しかし、学生は、経済的な理由等から食生活が疎かになり、世界で戦える身体ができていない。トレーニング・栄養・睡眠を効率よく実施できる知識と環境の充実を図ることが重要である。パワー・スタミナ対策（大型 PP・BP、クイックスタート、連戦）

【戦術面】世界は、速攻を中心に早いテンポで攻撃を仕掛けてくる。攻撃中心選手の DF 力が劣り、逆速攻の失点やクイックスタートに対する防御が問題となる。また、ポストへのパスミスなど帰陣できないミスを減らす。OF・DF バランスのとれた選手の育成とライン際のシュートが増えるグループ戦術を充実させる。また、日本人のクイックネスを最大限に生かすため、二次速攻による得点力アップを図る（チーム戦術の充実）。以上を踏まえて、大会前に互角以上の相手とトレーニングマッチを実施し、事前に課題を抽出する。大型 DF・GK 対策（ドリブル突破・ステップシュートの変化・ステップフェイント、ワンマン速攻、股下顔横シュート・速攻スカイ・攻め倦んだときの打開策）

【メンタル面】プレッシャーのかかる状況で実力が発揮できるように若い世代のうちに様々な相手と国際試合を数多く、経験させる必要がある。特に開幕戦と勝負の掛かったゲームの準備。モチベーションの持続や何事が起きても動じないメンタリティー、接戦での平常心が必要。

【コンディショニング】前回大会では、3連勝した休息日、翌日の状態が良くなかったので、スケジュール調整を綿密に行う。1日1回緊張感を与えるように工夫する。

【その他】怪我人などでメンバーの固定が遅れ、大事な場面で組織的に機能せず、また、センターラインを固める核の選手が育たなかった。国内でチームのベースを創り、海外遠征を実施、また、コートの中での監督を育成する。

【選手選考】24歳以下（実業団1・2年目）の強化指定選手から得点力、フィジカル、スピードの順で選考。国内の大会において、所属チームでゲームに出場している選手実業団とトレーニングマッチを行い、戦力的に必要な選手を補強（強化指定選手外含）。

【大会までの事前準備とコンディショニング】09 / 5 : NTC にて体力強化合宿を実施する。所属チームにて体力トレーニングを継続。強化指定選手をベースに世界で戦える身体（身長-100以上の体重）を目指す。09 / 8・2010 / 2 : 実業団とテストマッチを行い、課題の確認をする（チームのベース創り）。世界選手権の数週間前に現地入りし、テストマッチを実施し、パワーとスピードに慣れ、大会に臨む。

【ルール】代表選手としての自覚と責任のある行動をとる。コートの中では常に全力を尽くす。コートの外では、最高のパフォーマンスが発揮できる準備をする。

【スタッフ選考基準】技術・戦術を指導できる者（特に OF） / ハンドボールを熟知し、外国語が堪能な者 / 明るく気配りのできる事務的能力に優れた者 / 最新機器を駆使し、映像編集や分析能力にたけてる者 / メンタルケアもできるドクター・トレーナー

4. 今大会の成果と課題

(1) 過去大会に対する成果

【フィジカル面】（世界と戦える身体）パワー・スタミナ対策：押されて倒れる選手がいなくなった。連戦に対応できた。

【戦術面】（各局面バランスのとれた選手育成）DF～速攻が数多く決まった。個人戦術も決まった。

【コンディショニング】完璧であった。

(2) 第20回世界学生の成果

戦う姿勢があった。過去最高の4位となった。役割分担ができていて、チームワークがよかった。

(3) 第20回世界学生の課題

【フィジカル面】更なる個の強さ：コンタクトや身体の使い方

【戦術面】基本技術：DF 1対1（フェイント・ポスト守り） / GK：サイドシュートのキーピング / 攻め倦んだときの打開策（1点プレーの充実、弱点把握） / 7mT コンテストの準備

【メンタル面】最後まで攻め続ける強い気持ち、どんな状況も慌てない平常心。

【その他】大会規定の把握

5. 最後に

念願の世界大会でのメダル獲得はなりませんでしたが、日本ハンドボール界の強化の方向性は間違っていないと確信しております。NTS やジュニアアカデミーなど強化策を更に

女子 U24 監督 齊藤慎太郎

世界学生ハンドボール選手権大会の報告を、女子 U24 日本代表監督としてご報告いたします。

4 回にわたる国内合宿と、現地での直前合宿を含め計 5 回の強化合宿を実施し、本大会に臨みました。選手選考において、エントリー締め切り直前まで調整が難航したにも関わらず、強化のためにご協力頂いた選手ならびに所属のチームの関係者の方々には心より感謝いたしております。

結果は 7 チーム中 6 位と目標のメダル獲得には及ばず、残念な結果に終わりましたが、選手ならびにチームを支えてくれたスタッフが、最後まで勝利に向かい最善の努力を尽くしてくれたことは、今回のチームの成果の一つであったと確



女子 女子代表チーム主将 稲葉由衣

私達、U-24 女子日本代表チームは、6月27日～7月5日まで、ハンガリー・ニレージハーザ市で開催されました女子第8回・男子第20回世界学生選手権大会に出場させていただきました。

今大会は、前回大会に比べ女子は参加国数が7カ国と少なく、総当りのリーグ戦となりました。メダル獲得を目標に、国内での事前合宿や現地でハンガリーU-24とテストマッチを行い大会に臨みましたが、結果は1勝4敗1分と納得のいく結果を残すことはできませんでした。

パワーと長身を生かしたプレースタイルのハンドボールを展開する相手に対して、日本人らしいスピードとテクニックを生かすハンドボールができず、逆に自分たちのミスから相手のペースに持ち込まれるケースが多かったように思います。しかし、試合を重ねるごとに大型のバックプレイヤーに対するアグレッシブなディフェンスやそこからの逆速攻、ア

充実させ、日本代表の世界選手権での活躍やオリンピック出場に向けたサポートが他人事にならず、日本ハンドボールファミリーが一丸となる事を切に願い、大会報告とさせていただきます。

信しております。

大会前の合宿で、男子高校チームを相手にパワーと高さになれるためにゲームを実施しました。明星高校、湘南工科大付属高校には大変お世話になりました。相手のパワーに対する課題と、OFでのねらいの確認ができました。一方、DFおよび攻撃のポストとしてチームの主力と考えていた若泉と、大型プレーヤーとして期待していた町屋の両選手が負傷し、残念ながら試合には出場できなかったのですが、裏方として支えてくれたことには監督として心より感謝しています。

現地での直前合宿はハンガリーのU24代表チームと試合し、大型選手とのゲームを体感した後、本大会に臨みました。大会では初の海外遠征の経験者が多く、ミーティングで実施したこと、いざゲームにおいて戦ったときのギャップのリカバリーができないまま終わったゲームや、リバウンドやルーズボールの処理で失点してしまい、わずかに勝利を掴めなかったというような勝負どころの弱さが課題として挙げられました。逆に攻撃の展開のスピードやフェイント力などでは十分に勝負できる部分はありますが、攻撃の展開に+判断力が備わるとさらに、攻撃のよさが生きてくると感じました。

今大会を終えて、次の日本の主力となり世界で戦える選手としてこの大会の経験を必ずや次のステージに繋げてくれることを切に願う次第です。最後に、冒頭でも記述しましたが、本大会に参加するに当たり、多大なるご尽力をいただきました関係者の皆様方に改めて心より感謝申し上げます。

ウトスペースを狙った攻撃など自分たちの戦術が機能する場面が徐々に増えていきました。特に3試合目のルーマニア戦では、後半中盤までの10点のビハインドを1点差まで追上げるゲーム展開で、最終的には34対35で敗戦となりましたがスタッフ・選手共に納得のいく一試合でした。

今大会を通して、敗戦のほとんどが「惜しい試合だった」「あと少しで勝てた」という試合ばかりでした。しかし、私たちには「勝つ」ことが求められており、1点差でも「勝つ」ことを目標にしていただけに課題の多く残る大会となりました。大事な場面で1点を取る力、1点を守る力、6連戦という厳しい状況の中で大型選手と60分間戦い抜くスタミナなど、世界と戦うために私たちには多くの面でレベルアップが必要だと感じました。メンバーの中には学生選手・国際大会が初めての選手も多く、今大会に参加させていただいたことで貴重な経験となりました。

大会出場にあたり、ご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

戦評

【男子】

▼6月28日

日本 39 (14 - 12, 25 - 8) 20 メキシコ

東長濱のシュートで先制、小澤の速攻などで着々と加点し、17分までに10対4とリードしていたが、20分過ぎ、日本DFの突然の乱れから追い上げられて、14対12と2点差で折り返す。

後半開始早々1点差とされたが、その後、東長濱・野村・谷村・石川・小澤等で6連取、17分まで甲斐の好守を背景に、野村、信太、森光、他で14点差として、それ以降も、コンスタントに得点し、幸先よく緒戦を飾る。

(得点) 小澤8点、野村・信太6点、東長濱4点、森・森光・谷村・木切倉3点、石川2点、石戸1点

▼6月29日

日本 29 (11 - 10, 18 - 12) 22 ウクライナ

2mクラスの長身者をそろえたウクライナをどう攻めるか注目されたが、お互い探り合いから、2分過ぎ石川がミドルを決めて先制。10分までは5対3とリードしていたが、負傷退場者が出てから攻守でリズムを乱し、20分までにエースZAKHAROVをはじめ7連取され、その間10分間無得点で10対5とされた。20分過ぎから石川・野村・小澤・谷村・信太で6連取、甲斐の好セーブでウクライナを無得点に抑えて、前半を11対10で折り返す。

後半は、谷村、小澤の2連取でペースを掴み、東長濱のミドル・生川のポスト・石戸のミドル等から着々と加点。常に先手を取り勝利した。ゲームをリードした石川や甲斐・田中の両GKの活躍が光っていた。

(得点) 野村・小澤6点、東長濱5点、石川・谷村・石戸3点、信太2点、生川1点

▼6月30日：予選リーグ

日本 30 (12 - 22, 18 - 14) 36 チェコ

立ち上がり、チェコの長身ポストRIHAやJURKAのカットインで2連取されたが、日本も石川・小澤で取り返し、5分まで3対4としていた。5分過ぎ、メキシコ・ウクライナ戦で見られたDFの乱れが急に出て、20分までに14対5とされて、そのまま推移。結局、前半は10点差で折り返す。

後半、東長濱のミドル、小澤の速攻で調子を取り戻し、GK甲斐の踏ん張りがあり、10分経過時点で21対26として追い上げにはいった。その後、立直ったチェコはJURKA等でコンスタントに得点、日本も追い上げたものの及ばず敗れた。惜しまれる一戦であった。

(得点) 東長濱8点、野村・小澤5点、石川4点、森3点、谷村2点、信太・木切倉・石戸1点

▼7月2日

日本 41 (19 - 18, 22 - 15) 33 トルコ

勝てば3決へという大事な一戦。長身ポストTOLGA、エースVOLKANを軸とした攻撃を見せるトルコに、TOLGAのポストシュートで先制され、更に、VOLKAN、MERと連取されたが、3分過ぎにやっと谷村のミドルが決まり、5分で3対4とした。しかし、3連取され、3連取で返すといった状況から20分やっと13対12と抜け出す。その後も1点を争う展開、トルコに退場者が出たが生かす事が出来ず、終了間際互いに1点をとり18対19で後半へ。

後半開始早々、小澤の速攻2本、野村の7mTで3連取しペースを掴み、9分から11分にかけて石戸・東長濱、信太、小澤とたたみかけ、石川から小澤へのスカイも決まり29対23とした。以後、着々と加点し、石川のバックハンドシュートが決まると同時に終了し、3位決定戦へ駒を進めた。なお、GK甲斐の随所での好セーブが評価されゲームベストプレイヤーに選ばれている。

(得点) 小澤12点、谷村7点、石川・東長濱5点、野村4点、信太3点、森・石戸2点、生川1点

▼7月4日：3位決定戦

日本 38 (18 - 19, 13 - 12) 39 セルビア
(7 7mTC 8)

前回大会(イタリア)でも引き分けた因縁の相手であり、悲願のメダルをかけた一戦。

立ち上がりセルビアのエースMILINICのカットイン、KOVACEVICの速攻で2連取されたが、石川で返した。その後も東長濱・野村・小澤の3連取で4対3としペースを掴んだかに思えたが、6分過ぎDFの乱れから5連取を許し4対8とされる。その後、15分までは1点ずつを取り合う展開から、信太の速攻が決まり、小室、小澤でたたみかけ、10対11に追い上げる。GK甲斐の連続好セーブをはさみ27分、石川のミドルで逆転、17対16とするが、28分・左腕POPOVIC、29分PAVLOVICに決められ18対19で終了。

後半、日本は甲斐の好セーブをベースに速攻で、セルビアは左右のエースで共に加点、1点を取り合う好ゲームとなる。26分、小室で逆転するが、MILINICに2連取され30対31とされる。残り1分30秒で小澤が決めて同点。小室の好DFから残り15秒でマイボールとし仕掛けたが、タイムアップ。大会規定で7mTCへ。1回目・2回目で決着がつかず、サドンデスに。日本・セルビアともにベンチ全員が肩を組み味方の勝利を祈ったが、勝利の女神はセルビアに微笑み、日本の悲願のメダルは次回(ブラジル)へと持ち越された。

(得点) 東長濱10点、小澤9点、野村・森光4点、石川・小室3点、信太・谷村2点、木切倉1点

▼7月4日：優勝戦

ハンガリー 33 (16 - 13, 17 - 13) 26 チェコ

大型同士の対戦で迫力ある試合が展開された。立ち上がり、チェコが LEHOCKY、PTROVSKY で先行、ハンガリーはミスの少ない安定した試合運びで、エース HALÁSZSIMON、他で直ぐに追いつき、6分過ぎから4連取。以後、互いに点を取り合う展開で推移。16対13で前半を終了。

後半に入ってもハンガリーが先行し、18対13としてハンガリーペースで進む。チェコも、LEHOCKY、PETROVSKY、JURKA の得点で追いつくが、振り切られ、ハンガリーが優勝した。

【女子】

▼6月29日

日本 22 (11 - 19, 11 - 13) 32 ハンガリー

女子世界学生選手権初戦は、ハンガリーとの対戦。開始5分、サイド石井が7mTを獲得し樽井が確実に決め日本先制。6-0DFを攻めあぐむハンガリーに対し樽井の速攻で連続得点をあげる。開始17分まで6対8と一進一退の攻防が繰り広げられるが、徐々にハンガリーのディスタンスシュートが決まりだし、日本は低めの3-2-1DFにシステムを変え対抗するも、20分過ぎから足がとまり6連続失点で前半を11対19で終了。後半に入り、ハンガリーがもたつく中、早川・石井の両サイド、稲葉のディスタンスで必死に追いつくが、ハンガリーのパワーに押し込まれ、点差を縮めることができない。日本も前田・吉田のディスタンスで喰らいつくも後半11対13、Total22対32で終了。

(得点) 稲葉・石井・前田・早川・樽井・吉田3点、儀間・鎌倉・山田・原1点

▼6月30日

日本 29 (12 - 15, 17 - 18) 33 トルコ

女子世界学生選手権2戦目は、前回優勝のトルコとの対戦。低い3-2-1DFでスタートした日本。トルコのディスタ

ンスシュートを許し、トルコが先制点をあげる。日本も原のディスタンスなどで開始7分5対6の互角の立ち上がり。ここから、トルコのノーマークシュートをGK石原がことごとくファインセーブするも、日本もイージーミスが続く。10分過ぎに雷雨による雨漏りで10分以上の中断。試合再開後も両チームともミスが続くが、小林のポスト、原のディスタンスで17分7対6とリードし、リズムにのりだしたところで、豪雨による二度目の15分間の中断。試合再開され、ここからトルコのエースにディスタンス・カットインを許し前半を12対15で終了。

後半開始早々に原のディスタンス、石井のサイドで連続得点をあげるが、トルコのエースにワンアシストを含む4ゴールを奪われなかなか点差が縮まらない。日本も稲葉のカットイン、樽井の7mT、前田のディスタンスで反撃するも要所でトルコのディスタンスを守り切れず、後半17対18でトルコに逃げ切られた。


(得点) 石井・原6点、前田・早川・小林・樽井3点、山田2点、稲葉・吉田・高橋1点

▼7月1日

日本 34 (14 - 21, 20 - 14) 35 ルーマニア

女子世界学生選手権3戦目は、大型選手が揃うルーマニアとの対戦。センターDFの185cm2枚が壁となり日本が攻めあぐむなか、ルーマニアにポストプレー、速攻で4対1とリードされる。対する日本はセンター儀間のカットインに石井のサイドシュートで対抗。開始17分11対10とルーマニアにリードされ攻撃が単調となり、ルーマニアの速攻を許す。日本も樽井の7m、ディスタンスで得点するもルーマニアの攻撃を止められない。前半を14対21で終了。

後半に入り、日本は低い3-2-1DFにシステム変更しルーマニアの右45、ポスト封じをかける。OFでは日本の早さを活かし、アウトサイドを広げ稲葉・儀間のフェイントから樽井・原のカットイン、石井のサイド、リスタートなどでルーマニアを揺さぶる。ルーマニアの足が止まりだし、退場の間に鎌倉のポスト、山田のサイドシュートで24分32対



滋養強壯 虚弱体質

肉体的疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給



元気、やる気 笑顔、湧く。

医薬品



医薬品



Ⓜ 渡辺製薬株式会社 <http://www.wakunaga.co.jp>

お取扱い店のお問い合わせは ☎ 0120-39-0971

受付時間 月～金(祝日を除く)9:00～17:00(12:00～13:00を除く)